

園総合 2020 年度 自己評価シート 《結果》

A ; 園経営に対する評価

中期目標	短期目標	努力指標 (保育士の側の目標)	今年度の取り組み、問題点 次年度に向けての改善策	評価 (◎○▲)
様々なことに心を動かした人間味あふれる乳幼児の育成	<p>■自己肯定感をほぐくみ、自分に自信をもつ乳幼児を育てる</p> <p>■多様な感情を体験し心豊かな乳幼児を育てるために、様々な人や自然と触れ合う</p> <p>■体を十分に動かして遊ぶ中で、心を揺さぶられ深く感動したり探求心</p> <p>■人との関係を築く力をつけるために、あいさつや自分のことは自分でする力を育てる</p>	安心して自分を出し保育士との信頼感をもてるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ●ひとりひとりの子どもに寄り添い、まずは信頼関係を築き安心して子どもたちが生活できるようにした。 ●子どもたちは自分の気持ちを受け入れてもらい、寄り添ってもらうことで、萎縮せずに伸び伸びとしていた。次年度もしっかりと子どもに寄り添った保育をしていきたい。 	◎
		一人一人のよさを言葉に表す	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども同士お互いの良さを認め合えるように、ひとりひとりの良い所を職員が言葉にし友だちにも伝えると共に、また本人にも言葉で伝えることで自信にもつなげ、言葉で伝え合え、合えることを楽しめるようにした。今後もそうしていきたい。 	◎
		道徳性やきまりの必要性に気付き守るという気持ちの芽生えを培う	<ul style="list-style-type: none"> ●園外保育に出る際にも、公共の場での社会的ルールを伝え、守ることで、社会の一員として育っていく事の大切さを伝えた。 ●友だちとの小さな約束や、決められたルールを守れたことを褒めて、その気持ちを育ててきた。 ●友だちと様々な体験を重ねる中で、して良いこと悪いことなどが分かるように関わっていく。 	◎
		さまざまな遊びが豊かに展開する保育環境や保育教材等を整える	<ul style="list-style-type: none"> ●遊びや生活の中で仲間と共に楽しみ、興味や関心、好奇心や探求心を持って、いろいろなことに関われるようにした。今後も友だちと一緒に苦手な子にも、豊かな遊びが保障できるよう配慮していく。 	◎
		小学校の児童・教職員との交流や連携活動を計画的に実施する	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度はコロナ禍ということもあり、計画的に交流するのは難しかった。今後もコロナが続くようであれば、戸外を利用したりして感染対策をしながら、少しでも交流できるようにしていきたい。 	△
		四季の変化に気付く保育教材の工夫を行う	<ul style="list-style-type: none"> ●自然にふれ、草花などで遊んだり、虫探しをしたり、木の実を拾ったりして、四季の変化を感じられるようにした。オシロイバナの花びらで色水遊びをしたり、実りの頃には種でおもしろい遊びをしたりしたが、その後毒があることがわかり、すぐに伐採した。毒のある草木や虫の事を調べ、子どもが被害を受けないように気を付けていく。 	◎
		日本の伝統文化に触れる機会を意図的・計画的につくり伝えていく	<ul style="list-style-type: none"> ●日本に古くから伝わる伝統行事を取り入れ、子ども達が古くからの文化に触れる機会を作った。 ●お餅つきなどは伝承も大切だが、子どもは窒息の心配もあるので、危険を回避しながらも伝統文化を伝えていけるように検討。 	◎
		栽培活動を行うなかで植物の生育過程を知る	<ul style="list-style-type: none"> ●季節に応じて野菜の苗を畑に植え、成長を楽しみながら育てた。野菜を植えたあと、まわりの草取りが追い付かず大変だった。 ●防草シートなども利用して、草の出る場を少なくしていきたい。 	○

		栽培物を収穫してクッキング保育を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ●収穫物があるたび、子どもと料理方法を相談し、すぐにクッキングを行い、自分たちが育てたものを食べる楽しさを感じながら食べた。 ●感染症対策の為にも手洗いをしっかりと、マスク、手袋着用で行った。 ●手袋をして包丁を使用すると野菜が切りづらいなどがあった。 	◎
		解放感や様々な気持ちを味わえるように思い切り体を動かす活動を取り入れる	<ul style="list-style-type: none"> ●自分のやりたいことに向かって心と身体を十分に動かし、意欲的に動けるように配慮した。 ●身体を動かして、活動的に遊ぶことの苦手な子への声かけや配慮が難しい。 ●子どもの心に寄り添いながら気持ちよく活動できるようにしていく。 	◎
		近隣の公園を利用し、地域との交流や関わりを深める中で、公共の物を利用するときの社会的ルールなどを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ●近所の方と挨拶をしたり、社会的ルールを守ることを身につけていけるように声かけし、その体験を楽しめるよう心掛けた。 ●コロナ禍であったため、公園などの利用にも気をつかい、感染対策を心掛けての利用だった。 	○
		基本的な生活習慣の確立（自分で生活に必要なことをする）	<ul style="list-style-type: none"> ●園での生活の中では支援・援助をしながら、自分でできることが増えてくるように配慮した。 ●家庭にも生活リズムの乱れなどを改善してもらえるようお願いしてきたが、なかなか改善できない家庭もあった。 ●家庭とも連携をとりながら、子どもの生活習慣が身につくよう、丁寧にかかわっていききたい。 	○
		園児一人一人と元気にあいさつを交わしたり、園児が友達や様々な人にあいさつしている姿を認める	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども一人ひとりに元気に声をかけ、あいさつし、子どもから戻ってくる返事の声や態度など受け止めるとともに、その日の子どもの健康観察を行う。 ●同じ時刻に数人の登園が重なると、丁寧に受入れることが難しいときもあった。 ●今後も元気なあいさつを心掛けていききたい。 	○
地域に愛され、保護者に信頼される保育園	■開かれた保育園づくりをめざし、保護者との連携を図る	園だよりや保護者会を通して保育園への理解を図る	●園だよりやクラスだよりの発行を通して、子どもたちの姿を伝えてきた。コロナ禍の為、保護者会や園行事を縮小しての開催や中止を余儀なくされたため、保護者との連携が例年より難しかった。	○
		園長との懇談の充実を図り、乳幼児期の保育について情報発信をする	●コロナ禍のため、懇談会などを中止せざるを得なくなり、おたよりなどで情報発信した。	○
		園だよりやクラスだより、生活記録表で、降園時など、園児の生活している姿や成長の姿、保育の意図などを伝える	●生活記録表を毎日保護者に読んでもらうことで、子どもの園での様子や成長した姿を伝えてきた。園だよりやクラスだよりでも、他の友だちとの関わりや成長した姿などを丁寧に伝えてきた。	◎
		クラスだよりの月1回以上の発行と知らせたい内容の吟味をする	●年齢児毎の会議を隔週で行い、その中でおたよりに載せたいことなどを話し合った。子どもの様子がよくわかるよう、写真なども多く掲載した。	◎
		降園時や面談等を利用し、積極的に保護者に話しかけ、保護者が気軽に話しかけられるようにする	●コロナ禍であるため懇談会や個人面談などできない分、登降園時になるべく保護者に短時間ではあるが声をかけ、子どもの園での様子を伝えるようにしてきた。	◎

		保護者の保育参加の機会をつくる	●コロナ感染率が少し下がった時に、今がチャンスと検討し保育参加を行った。例年は昼食も一緒に食べて午睡なども一緒に行ったが、今年はコロナ感染防止のため、昼食はなしで時間も1日ではなく半日ずつにした。	○
		保護者が参加できる保育参観の機会を設け、活動内容を工夫する	●年3回の保育参観を全て行うことは、緊急事態宣言下だったり、感染防止だったりできなかった。しかし、やり方を変えることで少人数、クラス毎に行った。	○
		安全で清潔な環境をつくる	●登園前、園全体の床の消毒、降園後の各部屋の掃除と、取っ手や手で触れる部分の消毒、乳児室のおもちゃの消毒、貸し出し図書の消毒を行い、清潔に保つ。	◎
		月1回の遊具の点検や安全点検をする	●遊具の安全点検を定期的に行う。 ●その他、破損箇所などを見つけたら、その都度なおす。	◎
		乳幼児の姿から援助について学びあう	●研修などで乳幼児の姿を学び、お互いに学んだことを伝え合う。目の前の子どもの成長発達にあわせて、必要な援助を行えるようにする。 ●職員みんなの学びとなるよう、研修などで学んだことを伝え周知していく。	◎
資質向上を目指し、意欲的に経営に参画する保育士の育成	<p>■乳幼児の姿を見取り、確かな成長を支える保育士の資質向上</p> <p>■職員の連携とチーム保育の充実</p>	週日案を活用し乳幼児の姿を記録し自分の保育の省察をする	●一人ひとりの子どもの姿を丁寧にとらえ、保育を省みることで、今後の保育を見据える手立てとしていくようにした。 ●省みたことを、次の保育へ生かせるように活用する。	○
		乳幼児の実態を見直し保育計画の作成を進める	●目の前の子どもの姿をみつめ、発達の見通しを持って保育計画の作成をするようにした。 ●今後も目の前にいる子どもの姿を的確にとらえ、しっかりと子どもの発達を学ぶことで、見通しを持って関わり、保育計画をたてていきたい。	○
		クラス会議(部会)などで乳幼児の保育の方向性を話しあう機会を月に2回以上もつ	●子ども一人ひとりの発達や家庭の様子をとらえ、振り返り、担任全員で共有し、方向性を話し合う機会をクラスごとに行えるよう設定した。 ●手立ての必要な子などの育ちや、今後の関わり方などをクラス会議で共有し合う。	◎
		クラス担当チームで乳幼児を見守る意識をもつ	●担任それぞれの見方や子どもとの関わり方で感じた子どもの成長について、情報交換をし、共通認識の下で見守っていけるようにした。 ●クラス担任みんなで一人ひとりの子の成長・発達を見守る。	○

B ; 保育目標の達成、クラス経営に対する評価

項 目		状況・評価・反省
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ◇元気で生き生きとした子ども ◇自分の要求をしっかりと、主張できる子ども ◇身の回りの事が自分でできる子ども ◇豊かな感性と表現力をもった子ども ◇仲間と過ごすことを喜び、仲間のことを考える子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ●戸外でも伸び伸びと遊び、元気いっぱい生活できていた。 ●一人ひとりの子どもに寄り添い気持ちを受け入れる中で、自分の意志をしっかりと伝えられる子が増えた。成長発達とともに、友達の気持ちも受け入れられる子も増え、仲間との関わりが深くなってきた。 ●乳児クラスでも自分の靴を片付けたり脱いだ服を片付けたりと、保育士が毎日の生活の中で行っている行動を見ることにより、自分たちでやってみたい気持ちが芽生え、真似をしてやっていた。幼児クラスの子も、自分で身の回りの事をできる子が増えてきた。ひとつできたことを褒めることで「またやろう！」という気持ちがふくらみ、段々と習慣化してくる子も多かった。逆に、まだ自分の片付けなどが苦手な子には、担任が声をかけつつ援助などを行った。 ●自然の中で美しいものを美しいと感じ、嬉しいことを喜び、楽しんだり笑ったり、泣いたり怒ったりと、感情豊かに表現できる。また、丁寧な言葉かけや絵本や紙芝居の読み聞かせの中で、言葉豊かに発したりする量も増えて、豊かに表現したりリズムや歌などで自由に身体を動かして表現している。 ●仲間と一緒に過ごせること楽しみ喜び合い、自分のことだけでなく、友だちのこととも思いやれるように、毎日の生活の中で関わってきた。どのクラスも友だちのことが大好きな子が多く、一緒に過ごせることを楽しんでいる。
保育の重点	<ul style="list-style-type: none"> ◇生命の保持 ◇健康 ◇情緒の安定 ◇環境 ◇人間関係 ◇言葉 ◇表現 ◇食育 	<ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとり丁寧に関わる中で、その子その子の大切にしたいことや、そのクラスでの今、大切にしたいことなどを担任同士で共有し配慮した。
環境の構成	<ul style="list-style-type: none"> ◇健康支援 ◇安全対策 ◇環境衛生管理 ◇事故防止 ◇保護者・地域への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ感染防止の為に消毒や手洗いを徹底した。 ●事故防止の為に危険と感じた破損箇所や不備の箇所はすぐに直した。 ●安全に子ども達が過ごせるように見守りながらも、子どもの成長発達の為に必要な経験ができるように配慮した。

	問題点・検討点・改善点
伝統行事	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍の為、多勢の子が集まって行くことは難しかった。 ●感染対策をした上で、可能な方法を考え行っていく。
食 育	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍でのクッキング保育は、前期はかなり難しかった。ビニール手袋をしての調理など、感染対策をしながら試みた。
誕生会	<ul style="list-style-type: none"> ●毎月の誕生会で、アレルギーの子へも配慮しながらメニューを工夫し、マンネリ化しないように考える。
避難訓練	<ul style="list-style-type: none"> ●訓練を重ねることにより、子どもたちは放送の音に敏感に反応して行動をしていた。 ●担任が人数確認後の報告の際、休みの子の名前を忘れないようにする。
安全指導・安全点検	<ul style="list-style-type: none"> ●散歩中の安全な歩き方や道路の渡り方など、園外に出る際、常に伝えていく。ふざけて飛び出してしまう子へは、真剣に命の大切さを伝えていく必要がある。 ●遊具の定期的な点検の他、危険だと感じた職員はその都度、事務所へ報告する。
遠 足	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ感染拡大防止の為、親子遠足は中止。 ●子ども遠足のみ行い、園から歩いて行ける所へ子どもたちが楽しめるように配慮し、数回、園外の戸外で昼食を食べられる経験ができるようにした。

水遊び・夏季プール	<ul style="list-style-type: none"> ●夏季プールは監視役を確実に2人配置するのが難しいため行わず、代わりに、ホースを利用したりシャワーを利用したり、スプリンクラーやバケツ、ペットボトル、ブルーシートなどを利用して、水遊び体験をたくさんできるように工夫した。
飼育栽培	<ul style="list-style-type: none"> ●自分たちが散歩で捕えてきたザリガニやドジョウ、メダカ、バッタなどの飼育を本をみて学び行ったが、死んでしまう事もあった。命の大切さを学んだ。 ●畑に野菜の苗を植えたものの、草むしりが追い付かず、地主さんに迷惑をかけてしまった。子どもとできる範囲を考える必要もあった。栽培したことで野菜に興味をもち、その後のクッキング保育へと繋がった。
幼保小・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍ということで、交流は行われなかった。3月になり、小学校への入学直前で各学校との連携を行った。本来なら子どもたちが学校生活で不安にならないように、学校へ遊びに行き交流し、安心して入学できるようにしてあげたかった。
園内研修	<ul style="list-style-type: none"> ●ZOOMのシステムなどを活用し、職員全員で研修に参加することができた。ZOOM研修で多くの職員が学ぶことができて良かった。
懇談会、面談	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍の為、懇談会は年長組だけしかできなかった。 ●面談は必要のある場合のみ随時行った。 ●今後、コロナ禍でもその時に応じて、臨機応変に開催方法を検討していく。
読み聞かせ	<ul style="list-style-type: none"> ●0歳児から年長児まで読み聞かせを大切に行っている。聞く側の発達にあわせた内容のものを選んだり、子どもの希望のものに応じたりした。 ●コロナの感染対策として、クラスのみんなが集まるので、換気に気を付けた。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍で今までと同じ行事が一切できず、保育の上でも友だちとの関わりが多人数になってしまう中では、感染対策はしていても心配だった。しかし、子どもの成長発達の上では、友だちとの関わり合いが大切なことなので、今後も感染対策の検討をしつつ考えていきたい。
職員会議など	<ul style="list-style-type: none"> ●職員会議で多くの人数が集まると、コロナ感染の心配もある中で、少人数に分かれてグループ討議を多く行った。 ●全職員で行う時は、広いホールを使用し、大きな声で飛沫が出るのを防ぐためマイクを使用し、ひとりが使用するたびにマイクの消毒も行った。 ●会議ではベテランばかりが発言するのではなく、若い人たちも発言がしやすいように工夫した。今後もみんなが発言しやすい会議運営を行っていきたい。
施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ●築年数が経過してきて、修理の必要がある所などが少しずつ出てきた。縁側や廊下の水道まわり、げた箱などは職員みんなで塗装をしたりして、手入れを行っている。 ●設計士さんに修繕計画をたててもらい、それを参考にして少しずつ修繕をして、施設を大切に保っていき、使いにくい所などは修繕の際に、使いやすいように提案し、直していく。
連休中当番、園庭開放 本貸し出し等	<ul style="list-style-type: none"> ●連休中の当番は交代制で行った。 ●園庭開放と絵本貸し出しについては、コロナ感染拡大防止の為、登園自粛期間中はお休みとした。登園が可能になってからは、絵本貸し出しについては再開したが、返却のつど滅菌庫で消毒を行っている。 ●園庭開放については地域の子育て支援として、決められた日に、決められた時間で5組までとし、コロナウィルスが感染拡大しないように対策をとった上で行った。 ●今後も感染対策をしながら、園庭開放や絵本の貸し出しなどをしながら、在園の子も在園外の地域の子も支援していきたい。
その他	